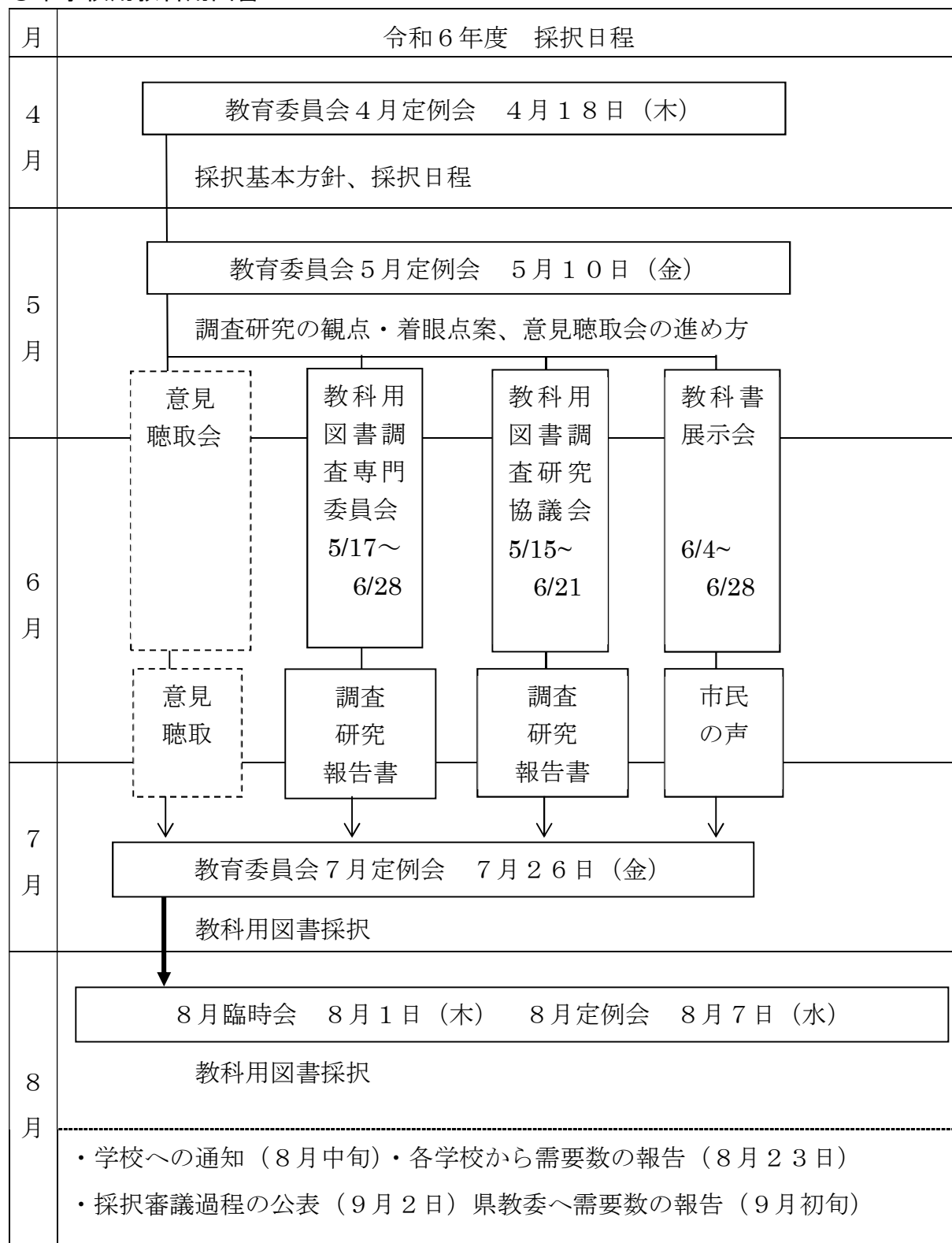


令和7年度使用教科用図書採択の流れについて

○中学校用教科用図書



※ 意見聴取会は、教育委員より要望があった場合に実施。

教科用図書調査専門委員会調査研究報告書（国語）

観点 発行者	A者	B者	C者	D者
1 学習指導要領との関連	巻頭に領域ごとの既習事項（これまでに学んだこと）と、学習事項（これから1年間で学ぶこと）が掲載されている。学習事項は、学習指導要領との対応が明確に示され、学習の系統性の重視、言語活動の充実などが図られている。	巻頭に「領域別教材一覧」を設け、「つきたい力」を明示し、学習指導要領の目標及び内容がもれなく指導できるようになっている。学習過程の明確化や学習の系統性の重視、言語活動・読書活動の充実などが図られている。	○ 教材の冒頭に、コラム「学びナビ」を設け、何を学習するかを明確にすることで、生徒に学習の見通しと学習へのかまえをもたせるようにしている。巻頭の「言葉の地図」で学習指導要領における学習の位置付けを確認することができる。	巻頭の「学習の見通しをもとう」では、各教材で身に付ける資質・能力が、指導事項との対照表の形で明確に示されている。生徒が自ら学習の見通しをもったり、既習事項の確認をしたりできる構成になっている。
2 「名古屋市教育局振興基本計画」との関連	SDGsをはじめとしたさまざまな現代的な諸課題を、文章や言語活動の題材として取り上げている。特に、戦争・平和、防災・安全、環境、多様性社会（人権・福祉・国際理解）、キャリア教育に関する題材が積極的に扱われている。	日常生活や現代社会における課題を取り上げ、対話を通して考えたり問題解決したりする教材が多く掲載されている。「話し合いのこつ」を具体的に示すなど、対話・合意形成などの「かかわる力」を育てることができる。	○ SDGsを国語科の視点で教材化した「持続可能な未来を創るために」を全学年に設け、対話を通じて考えを深められるようにしている。また、身近な地域の題材「有松・鳴海絞り」を教材として取り上げており、郷土への愛着や理解を深	○ 持続可能な社会のために行動できる主体を育てるために、SDGsに代表される現代的な諸課題を幅広く取り上げ、関連する教材を、全学年、全領域に位置付け、SDGsへの関心を高め、知識や考えを広げることができるようにしている。
3 (1) 内容の選択	思考力・判断力・表現力等の育成を図る各教材で身に付けたい資質・能力が「言葉の力」という囲みで明示されており、実際の言語活動の場面に即した具体的な内容で書かれている。また、豊かな情操や共感する心を養う題材が豊富に取り上げられ、道徳との関連も図られている。	○ 読み方の「話すこと」・「書くこと」を明示した「思考力」が、夫がされておうになっている。がら人や社会について多様な見方で考えることができ、道徳との関連も図られている。	○ 「書くこと」「読むこと」「知識・技能を明確に活用により、できるように工夫して、道徳的価値にかなる考えを深めることができるように配慮されている。	○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習において、課題解決を行う過程で、必要な言語能力や情報活用能力を育成するよう配慮されている。また、発達段階を考慮するとともに、生徒の学習意欲を喚起し、道徳的心情や道徳的判断力が育成されるよう配慮されている。
(2) 内容の程度	○ 発達段階に応じた言語活動の題材、文種・文章構成・文章量の教材文が取り上げられている。各教材の「言葉の力」や基礎編の「学びを支える言葉の力」では、他教科の学習や日常生活で生かせる資質・能力を育むことができるように、具体的な内容や手順が汎用性をもって示されている。	3年間を通して系統的・段階的に教材を配列し、既習事項を活用しながら、言葉の力を身に付けられるようにしている。また、基礎的な重要事項は繰り返し提示するなど、言葉の力が定着するよう工夫されている。「学び方」を身に付けることを重視し、他教科の学習や日常生活で活用できるよう工夫されている。	○ 各領域の教材は、生徒の言語環境や発達段階を考慮した内容になっており、「習得」と「活用」を難易度を上げながら繰り返すことで知識・技能や思考力・判断力・表現力等を身に付けていくことができる。また、国語の学習を他教科や日常生活に生かす観点を示し、活用できるよう工夫されている。	○ 学年が上がるにつれて、系統的に身に付けさせたい知識・技能を、繰り返し学習しながら習得できるように教材を配列している。さらに、それらを活用して、思考力・判断力・表現力等を高めていける構成になっている。また、他教科や日常生活との関連を図ることができるよう題材や学習活動が工夫されている。
(3) 内容の構成	各領域とも、3年間を通した系統性・段階性をもって「目標」が立てられ、「言葉の力」が配列されている。各領域で習得した「言葉の力」が、他の領域の教材の中でも活用できるよう、領域間で有機的につながるように配列されている。「読書案内」や「読書活動」では、生徒の読書生活を支援し、進んで読書に取り組む態度を養う工夫がされている。	○ 生徒の発達段階に応じ、各学年の配当時間の中で無理なく学習計画が立てられるよう、適切な分量の教材を配列している。各教材の文章の長さは、各学年の発達段階や学習内容に適したものが選ばれ、意欲的に学べるよう配慮されている。巻末「読書の広場」には、いくつかのテーマに沿って本を紹介する「小さな図書館」（読書案内）と、複数の読書教材が掲載されている。	1年生では、小学校での学習を踏まえており、基礎・基本の確実な定着を図っている。また、学期ごとに、各領域等の教材を偏りなく系統的に配列しており、学期ごとの学習評価に配慮されている。単元ごとに設けられた「広がる本の世界」では、各単元の課題を考えるためのキーワードと関連した図書を紹介し、読書の充実を図っている。	○ 学習活動を通して「言葉による見方・考え方」を育成できるよう、教材を年間8系列のテーマで、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の各領域が特定の時期に偏ることのないようにバランスよく配列・構成している。読書に関する特設教材「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」では、読書への意欲を喚起するよう工夫されている。
4 表記・表現及び使用上の便宜等	○ 教材末の「てびき」には、「目標」「問いかけ」「言葉の力」「振り返り」という各教材共通の学習の流れが示され、「言葉の力」に身に付けさせたい資質・能力が明示されている。「Dマーク」が付されている教材は、QRコードから音声や映像等、計70のコンテンツが活用できる。	見開き2ページの「学びの道しるべ」で学習過程を明確にしている。関連して学習できる様々な読み方の方略を「読み方を学ぼう」で取り上げて深い学びを促している。また、「まなびリンク」（QRコード）を教科書冒頭に配置し、自学自習に役立つ学習素材を閲覧できるようにしている。	○ 「学びナビ」の「ここが大事」「目標」などで重点的に学ぶ事項を示して学習の見通しをもたせ、「みちしるべ」に「振り返り」を位置付けて深い学びを促している。また、「まなびリンク」（QRコード）を教科書冒頭に配置し、自学自習に役立つ学習素材を閲覧できるようにしている。	○ 教材末の手びき「学習」に学習過程が明示されており、対話的に学びを深めることができる。また、教科書の随所に記載されたQRコードから教科書連動コンテンツに収録された動画などの参考資料を閲覧することができる。
5 印刷・造本等	本文には教科書用にデザインした自社作成のフォントを使用しており、手書き文字との差が学習上の支障とならないようにしてある。また、紙面・図版・イラストには、色覚特性への配慮がされている。	読みやすさに配慮した独自のフォントを使用し、画数や点画の方向において誤解が生じないようにしている。色覚特性を考慮した配色や色以外で見分ける工夫がされている。薄くて軽い用紙を用い、開きやすくなる製本方式を採用している。	○ 文字学習や読みやすさに配慮したフォントを使用し、余裕のある文字組になっている。紙面は統一的で落ち着いた色づかいで、色覚の特性を考慮した色と形によって表示され、カラーユニバーサルデザインの専門機関（CUDO）の認証を得ている。	本文には教科書用にデザインした自社作成のフォントを使用しており、手書き文字との差が学習上の支障とならないようにしてある。また、紙面・図版・イラストには、色覚特性への配慮がされている。

【参考】
令和2年度に使用したものです。

発行者 事項	A者	B者	C者	D者
1 〔知識及び技能〕に関する内容が充実しており、系統的に配置されているか	「読むこと」教材の「広がる言葉」で文章中の表現と関連させて語彙の習得を図っている。また、巻末の「言葉を広げよう」に例文も提示されており、習得した言葉の活用を目指している。漢字については、小学校6年生で学習した漢字の問題を設け、習得できるようになっている。 「情報の扱い方」については、巻末の「学びを支える言葉の力」の「論理的な言葉の力」において、イラストや具体例を交えながら、ポイントを整理して学習することができるよう配慮されている。また、それらの力が本編のどの教材につながるかも示されている。	各教材の「語彙を豊かに」で多様な観点から語彙を豊かにし、語感を磨くために様々なテーマで、教材に関連した語彙を習得できるようになっている。巻末の「語彙の広がり」で各学年の学習内容に即して、更に深く学習できる教材が設けられている。漢字については、練習問題として「漢字を身につけよう」が単元の最後に設定されている。 「情報の扱い方」に特化した単元「情報を関連づける」が各学年の第6単元に設定されている。また、各単元の「学びの道しるべ」に「思考の方法」を示し、「情報の扱い方」が学習できるようになっている。	「言葉の小窓」において、英語との関わりを取り入れ、日本語の特質に気付いたり、他の言語に関心をもったりすることができるようになっている。漢字については、巻末の「学年で学習した漢字」で特に大きな教科書体の活字を用いて、正しい形を習得できるよう工夫されている。また、小学校6年生で学習した漢字については、手書き書体が付されている。 「情報の扱い方」については、各教材冒頭の「学びナビ」において、重要事項や学習のポイントを示し、具体例や図を交えて習得できるよう工夫されている。また、「メディアと表現」において広告や写真などで活用すること	語彙教材が各学年で一つ設定されており、相手や目的に応じた言葉選びの習得を目指している。漢字については、練習問題「漢字に親しもう」が設定され、練習漢字を用いた短文などで、漢字を習得できるようになっている。また、小学校6年生で学習した漢字には手書き書体が付されている。 「情報の扱い方」については、「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」で図や例を用いて説明されている。また、「情報社会を生きる」で習得した知識・技能を日常生活に活用することが図られている。
2 学習過程が明確に示されており、繰り返し言語活動が行えるよう配慮されているか	巻頭の「一年で学ぶこと」では、3領域のつながりや系統性を意識した学習過程が明示されている。また、「読むこと」の教材末の「てびき」には、教材ごとに重点的に扱う指導事項に基づく「目標」や「言葉の力」が示されており、全ての言語活動が網羅されるよう工夫されている。	巻頭の「領域「学びの道しるべ」や「見通しをもって学習ができるよう工夫されている。また、学習指導要領に示された言語活動例が網羅されており、全学年において言語活動が充実している。	教材ごとの「学びの道しるべ」が関連させて繰り返しながら学習できるよう工夫されている。また、「学びナビ」では、学習過程とともに、情報の整理の仕方、表現の仕方、読み方等が明示されている。	巻頭の「学習の見通しをもとう」では、教材ごとの「つけたい力」が簡潔に示されている。また、「読むこと」の教材末の「学習」では学習過程を明示し、重点を置く過程を強調することで、身に付ける力の焦点化を図るとともに、対話的に学びを深められるようにしてある。
3 文章の種類が調和的に配置され、説明的な文章については適宜、図表や写真等が含まれているか	「読むこと」の領域等において、物語、小説、随筆、詩、古典、説明文、評論文、論説文など多様な文種を、教材の趣旨や生徒の発達段階に応じて系統立てて配置している。説明的文章については、図表を用いた実用的な文章や様々な文章や主張を比較精査する活動が数多く用意され、「てびき」の学習を通して論理的思考力を育てられるように配慮されている。挿絵・図版・写真は、文章の理解を助ける資料性の高いものが、内容に合わせた位置に適当な大きさで配置されている。	「読むこと」の領域等において、物語、小説、随筆、評伝、詩、古典、説明文、実用文、評論文、論説文など多様な文種を、教材の趣旨に応じて偏りなく配置している。説明的文章の挿絵・図版・写真は、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えられるよう適所に配置されている。また、各学年において、「情報の扱い方」に特化した単元を設け、グラフや図表などの情報と文章による情報とを関連付けながら自分の考えを深める学習ができるようにしている。	「読むこと」の領域等において、物語、小説、随筆、脚本、詩、古典、説明文、報告文、規約文、実用文、評論文、論説文など多様な文種を、教材の趣旨に応じて偏りなく配置している。説明的な文章については、挿絵・図版・写真は、生徒の学習意欲を高めるもの、文章の理解を助ける資料性の高いものなど、学習上必要なものを十分に取り上げている。また、複数の図表や写真、複数の文章などを組み合わせて読む教材を各学年に設け、論理的思考力を育てられるよう配慮されている。	「読むこと」の領域等において、物語、小説、随筆、詩、古典、説明文、実用文、報道文、評論文、論説文など多様な文種を、教材の趣旨や生徒の発達段階、系統性を考慮した上で配置している。説明的文章については、生徒の学習意欲を高めるだけでなく、文章と図表などを結びつけて解釈する力や、文章や情報を「比較する」「批判的に読む」「評価する」といった力を効果的に育てるよう、複数の文章を並べて配置したり、挿絵・図版・写真等の配置を工夫したりしている。

【参考】
令和2年度に使用したものです。

(様式2)

令和3年度使用教科用図書調査研究報告書(種目名 国 語) 学校名

中学校 校長名

公印

観 点		着 眼 点	A 者	B 者	C 者	D 者
1	学習指導要領との関連	【目標】言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 この目標を達成する上において、効果的に編集されているか。				
2	(1)内容の選択	ア 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る学習活動と思考力・判断力・表現力等の育成を図る学習活動が配慮されているか。 イ 生徒の学びに向かう力を高めるよう、配慮されているか。 ウ 自然や四季に関する題材を取り上げられているか。				
	(2)内容の程度	ア 目指す資質・能力の育成に資する内容が適切であるか。 イ 他教科等や、実生活・実社会と関連しているか。 ウ 補充的な学習や発展的な学習が図られているか。				
	(3)内容の構成	ア 学習目標・計画が立てやすい単元の構成になっているか。 イ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が適切な分量で系統的に配列されているか。 ウ 情報の扱い方に関する題材や、我が国の言語文化に関する題材等が取り上げられているか。 エ 語彙指導や言語活動の創意工夫、読書指導の充実を図ることに配慮されているか。				
3	学習の仕方への支援	ア 生徒の学びに向かう力を高めるような、適切な表記・表現がされているか。 イ ICTを活用して学習を進めるための工夫がされているか。				
4	指導上の便宜	ア 学習のねらい、学習の手引・練習・まとめの提示についての工夫がされているか。 イ 本文記述と挿絵・イラスト・写真・図表等が適切に関連付けられているか。				
5	印刷・造本等	ア 印刷の鮮明度、文字の大きさ、書体、色彩等は適切であるか。 イ ユニバーサルデザイン化が図られているか。 ウ 造本の堅ろうさや体裁は適切であるか。				

<記入の仕方> 優(◎:特に優れている)、良(○:良い)で評価し、◎は各観点につき1個、○は各観点につき1個以上記入 (中学校用)

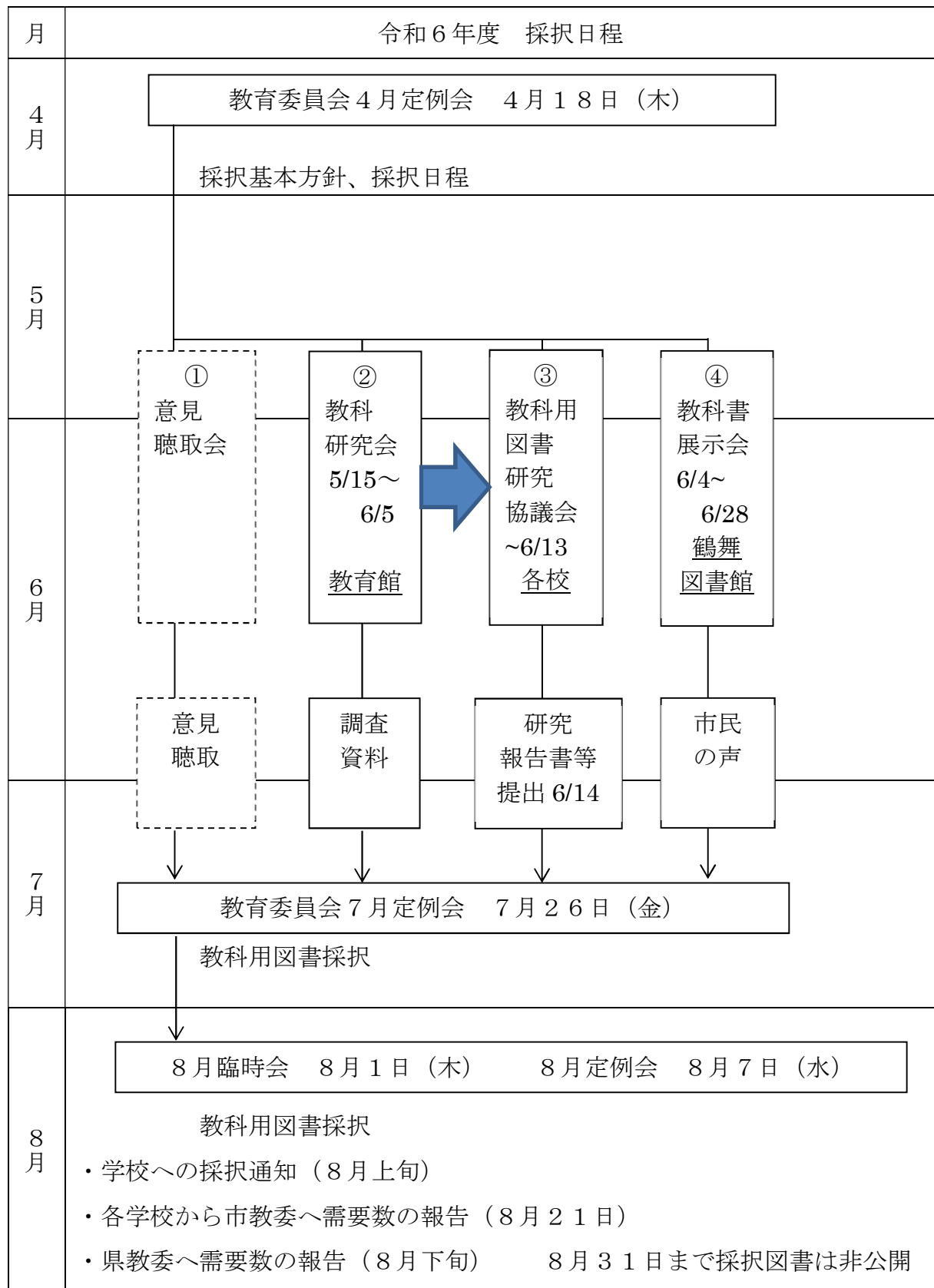
令和7年度使用中学校教科用図書展示会場一覧（教員対象）

	区	中学校数	会 場	調査研究期間（予定）
①	千 種	7	中学校	5/15～6/21 28日間
②	東	4	中学校	5/15～6/21 28日間
③	北	7	中学校	5/15～6/21 28日間
④	西	7	西図書館	5/16～5/31 9日間 (5/17、20、27 は使用不可)
⑤	中 村	7	中学校	5/15～6/21 28日間
⑥	中	4	中学校	5/15～6/21 28日間
⑦	昭 和	5	鶴舞中央図書館	5/16～5/31 9日間 (5/17、20、27 は使用不可)
⑧	瑞 穂・熱 田	8	市教育センター 図書室	5/16～5/31 12日間
⑨	中 川	6	中川図書館	5/16～5/31 9日間 (5/17、20、27 は使用不可)
		5	中学校	5/15～6/21 28日間
⑩	港	8	港図書館	5/16～5/31 9日間 (5/17、20、27 は使用不可)
⑪	南	7	南図書館	5/16～5/31 9日間 (5/17、20、27 は使用不可)
⑫	守山	8	中学校	5/15～6/21 28日間
⑬	緑	12	中学校（2校）	5/15～6/21 28日間
⑭	名東	8	中学校	5/15～6/21 28日間
⑮	天 白	7	天白図書館	5/16～5/31 9日間 (5/17、20、27 は使用不可)

※ 見本本の部数は、学校は1部、教育センター・図書館は2部です。

※ 調査研究期間は、土日を除く。

○高等学校用教科用図書



※ 意見聴取会は、教育委員より要望があった場合に実施。